

コンテンツ収集戦略

平成22年度学術ポータル担当者研修

平成22年8月25日(水)

金沢大学附属図書館 情報企画係 守本瞬

もくじ

- 機関リポジトリのコンテンツを知る
 1. コンテンツを知ろう！
 2. コンテンツ別攻略法
- 研究者に登録してもらうために
 1. とりあえず知ってもらおう
 2. 興味を持ってもらおう
 3. 捕まえたら離さない



機関リポジトリのコンテンツを知る

いかにコンテンツを集めるか

機関リポジトリのコンテンツ

メタデータだけのDBではない

本文を公開するのが前提

自機関を**アピールする資料**の公開

(例: 受賞論文の公開)

放っておくと消えてしまう資料の保存

(例: 講義資料の公開)



機関リポジトリのコンテンツ

所属研究者の研究成果と

機関の活動成果はすべてが対象

紀要論文, 学位論文, 科研費報告書,
学術雑誌論文, 学会発表資料,
スライド, 予稿集, 新聞記事,
コラム, サイエンスデータ,
ビデオ, 音声, 講義教材,
広報資料, 説明会の資料も・・・?



コンテンツの収集

- 機関としての収集方針・
運用方針をどうするか
 - 公表済文献に限る？
 - 前任地で執筆した著作も対象？
 - 退職後の著作？
 - 修士論文・卒業論文は？
 - 学生の業績も？
 - 登録拒否は？ 取り下げは？
 - 義務化する？

DRF wiki に各大学運用方針一覧あり



登録する側から見た2つのタイプ

	定期モノ (一括モノ)	個別モノ
主なコンテンツ	紀要論文, 学位論文, 科研費報告書。	雑誌論文, 学会や講演会の資料。
対象の把握	容易。	困難。
アタック先	教員 + 編集委員会など。	個々の教員。
主なコスト	スキャン/データ作成	手間。とにかく人手がかかる。
収集手順	定期的。遡及も可。	一つ一つ集める。「一括で大量に」は困難
元データの ありか	定期的に調達。また, 過去分は, まとめて所蔵がある(はず)。	教員の手元に個々にある。過去分は残っていない場合が多い。

コンテンツのファイル形式

基本はPDF

- ・ ファイルのPDF変換
 - Adobe Acrobat 9
 - Officeは最新版で, 一太郎, TeX (テフ)
 - Mac も?
- ・ 裁断してスキャン
 - スキャナ(OCRソフトも)
- ・ 透明テキストは必ず付ける
 - OCRソフト
- ・ 解像度 400dpi
- ・ セキュリティ



コンテンツ別攻略法：定期モノ 1

紀要

- アタック先：紀要編集委員会
リポジトリから公開しません？
- 新刊分はボーンデジタルで！
編集・査読プロセスを電子化
→ 印刷業者からPDF納品
新刊分は自動で集まるようにしよう
- 過去分はNIIから！
「研究紀要のコンテンツ提供」サービス



コンテンツ別攻略法：定期モノ 1

紀要

- 著作権処理

紀要の投稿規程では著作権者はどちら？

著者 or 出版者

- HPや紀要, メール等でお知らせ
 - 回答なし = "許諾" ということで
- 投稿規程に明記してもらおう
- 立ち上げの前から行動可能！



コンテンツ別攻略法：定期モノ 1

紀要

- バックナンバーの一括登録

量によっては外注

スキャンしてPDF化

メタデータの作成

(仕様をきっちり。登録後の修正は大変)

参考：国立国会図書館資料デジタル化の手引き

<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/digitalguide.html>



コンテンツ別攻略法：定期モノ 2

学位論文 (基本は博士論文)

- アタック先1： **本人** ・・許諾関係
- アタック先2： 教務, 学位審査委員会などで義務化 ・・収集関係
- 著作権関係が面倒な分野も
雑誌論文の抜刷をまとめたもの,
出版予定, 特許取得関連
- 修論／卒論も？



コンテンツ別攻略法：定期モノ 2

学位論文 (基本は博士論文)

- 新規分から集めよう
 - 卒業式でチラシを撒く
 - 学生系の説明会でチラシを撒く
 - 授与規程に入れてもらう(義務化)
など

義務化したときは、
許諾しない場合のみ意思表示



コンテンツ別攻略法：定期モノ 2

学位論文 (基本は博士論文)

- 過去分は結構大変
 - 連絡先が分からない
 - 既に死去・・・遺族に許諾
 - なんのことか不明なので無視
 - あれはもう忘れたい・・・という先生
- 連絡そのものを業者に外注
- 遺族向けの説明書
- 国会図書館の電子化事業



コンテンツ別攻略法：定期モノ 3

科研費報告書

- アタック先1： **本人** ..許諾関係
- アタック先2： 担当部署 ..収集関係
- 多くの場合，報告書＋各成果
 - 報告書－ NIIのKAKENで公開
 - 各成果－ 論文や学会発表
- メタデータに工夫がいる
 - 親データ・子データ



コンテンツ別攻略法：個別モノ1

学術雑誌論文

- アタック先：**本人**
- とにかく、待っているだけでは
コンテンツは集まらない

事前調査してから

この論文をください！

かつ

「論文を送るだけ」にすること



コンテンツ別攻略法：個別モノ1

学術雑誌論文

- 抜刷が届いても断らないこと
「著者最終稿なら登録できるのでください」
（「登録できません」で終了するのは×）
- 反応が少なくてもあきらめないこと
地道に宣伝 → 少しずつですが増やそう
- 立ち上げ前から行動可能！
練習も兼ねて。ルーチンの確認をしよう



コンテンツ別攻略法：個別モノ2

講演などのスライド資料

- この資料をください！で集める
 - 学内の開催案内に注目
担当係に問い合わせ、ファイルをもらう
もちろん講演者の許諾は必要
 - 学外の方の講演でも学内の活動
→ 理論上はOK
 - 内輪の会だと、スライド内容が・・・
 - 協力関係の先生は自ら投稿も



コンテンツ別攻略法：まとめ

- **定期モノ (一括モノ)**

スタート時に一気に遡及。
あとは定期的に。

肅々とすすめよう

- **個別モノ**

先生に個別アタック。一つずつ
少しずつ。

がんばってすすめよう



コンテンツ別攻略法：まとめ

- ・集めやすいものからはじめよう
- ・著作権のことは「図書館でします」
- ・紙媒体でも断らない
- ・優先順位も決めておこう

できれば学術雑誌論文に力を
新規論文 > 過去分の遡及

- ・登録したらお礼メールを



**研究者に登録してもらったために
いかに協力してもらおうか**

研究者に登録してもらうために

- とりあえず公開一見せて伝える

「デモ用のデータベースを構築する際に重要なことは、「**本物の**」**コンテンツを使うこと**である。」

(エジンバラ大学, ノッティンガム大学)

データ36件で試行公開スタート

(北海道大学。すでに3万件突破)

- とりあえず知ってもらおう
- 次に、興味を持ってもらおう
- さらに、興味を持続してもらおう

要するに
サンプル



構築開始にあたって

- 大学上層部の説得・同意

機関リポジトリを, なぜ大学として

始めなければならないか

あの手この手で

- 理念を説いて正攻法で
- 説明責任・情報公開の観点から
- 地域貢献しましょう
- 宣伝になりますよ



とりあえず知ってもらおうー宣伝

• 名称・愛称は？

正式名称

なんとか リポジトリ (千葉大ほか大多数)

なんとか コレクション (北大, 小樽商大, 三重大ほか)

なんとか アーカイブ (室蘭工大)

なんとか システム (埼玉大)

愛称

語呂あわせ (HUSCAP, CURATORほか多数)

固有名詞 (Barrel, TeaPot, KURENAI 多数)

「なし」という選択ももちろんOK



とりあえず知ってもらおうー宣伝

• キャラクタ・広報グッズ

広報グッズ(配る・貼る)

- クリアファイル
- エコバッグ
- うちわ
- タンブラー
- 缶バッチ
- 鉛筆, ボールペン
- 付箋
- 壁紙, バナー
- ポスター
- 食堂の三角スタンド



IRUCA 東京歯科大

TeaPotについて知りたい方はこちらへ [Click!](#)



TeaPot お茶の水女子大

無差別のチラシ配布
はスパム扱い

もう少し知ってもらおう

- 説明会を開く

説明会は工夫が必要

ただ開催しても集まってくれない・・・

教授会などにお邪魔する

短く！ 15分もらったら、

5分説明 10分質疑応答

理念より、して欲しいことを強調

説明しつくすことを目指さない

イベントの一部を充てる

データベース講習会のついで



もう少し知ってもらおう

• 質疑応答は大事

予備知識, 準備

- 相手のこと。発表論文等
- 相手の研究分野の主な出版社ポリシー
- 雑誌危機(購入雑誌タイトル, EJ予算)
- 日本の状況(日本のIR数, 先行大学の例)
 ウチもやらずにと思わせる
- 海外の情勢・事例(NIH, 英米議会, 義務化)

こわがらずに誠実に熱意を持って。
質問するのは興味があるから。



興味を持ってもらおう

- **個別コンタクトを企画**
研究者を知ろう
研究について、投稿雑誌について
- **誰から聞きに行く？**
 - － トップから
 - － 身近な先生から。芋づる式
- **いつ行く？**
 - － 構築前
 - － 構築後

何か説得しに行くわけではなく、
話を聞きに行こう

きっかけ

質問が来たら／「もう少し詳しく助言をいただきたい」／「USBメモリ持って今から伺います」／「先生が投稿する雑誌について教えて」／ILLで「先生これタダで読めるんです」

場所

食堂や道端で突撃(アポなし)... というか雑談

興味を持ってもらおう

- (切り番)インタビュー

- 該当論文の内容, 現在の研究内容, 研究のきっかけ, IRについてどう思う? 等についてインタビューし公開 → 研究者と協力して大学を広報していることにもなる

- アドバイザー, 委員会

- 日頃の運営から教員に参加してもらおう
- 各研究分野の研究手法や情報の入手・成果の発表方法・査読システム・研究データの扱い等についてインタビュー
- リポジトリのサイト構成等について意見



捕まえたら離さないために

● 統計情報のメール通知

各文献のダウンロード回数を月次で提供者にメール通知

- ・あとから実装するのは意外と大変
登録するたびに、設定する方がたぶんラク
- ・複数の著者への知らせ方？
- ・毎年のメンテナンスも考えて

● 業績DBとの連携

教官が登録するときに、機関リポジトリへの登録画面も出す。できれば相互リンクを。



研究者に登録してもらうために：まとめ

- まずは周知のあの手この手 – 宣伝
- 理解者，協力者を見つけよう
やっぱり館長から標的に
- 反対者，懐疑論者は必ずいる
気にしつつ，気にしない
- ところで，図書館員に対する
周知は大丈夫？
他の係との連携もしよう(ILLとか)



全体のまとめ

- 資料別の対処法を覚えよう
分からないことは聞いてよし。
- 先行大学の例を参照しながら、
自大学に合ったペース・やり方で。
- 教員の研究の流れを理解することで、
集めやすくなる。

これは、図書館サービス全体にとって有益です。

ついでに図書館の存在アピールにも。



おまけ

- 図書館員だけが有益とっていてはダメ。教員にも有益とってもらえるように。そうすれば、おのずとコンテンツは集まる。
- 読者としての研究者だけでなく、著者としての研究者に対するサポートサービスでもある。
- 教員と作り上げるもの。信頼関係を結ぶきっかけになる。



おまけ

隠れた最大のメリットは・・・

- 図書館はこれまで専ら利用者(読者)としての教員(研究者)を相手にしてきたわけですが、IRを推進するにはどうしても**発信者(著者)としての教員(研究者)**と密接な関係を結ぶ必要があります。
- 図書館が中心となって機関リポジトリを推進することの図書館にとっての**隠れた最大のメリット**というか**恩恵**というか**楽しみ**は、**発信者(著者)としての教員(研究者)**と身近に接し、そこから、**これまでになかった新たな図書館サービスのヒントを得られる**ことではないか

(<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf-ml/100/194.html>)



ありがとうございました

平成22年度学術ポータル担当者研修

金沢大学附属図書館 情報企画係 守本瞬